

平成27年度第3回花巻市立図書館協議会 会議録

○日 時 平成28年2月25日（木）午前10時00分～午前11時50分

○場 所 花巻市立花巻図書館 会議室

○出席者 (1) 委員

小山田厚委員、市川浜委員、門馬優子委員、高橋則子委員、
日下明久美委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、白藤祐三委員
佐藤寧委員（計9名）

(2) 図書館長

佐々木昭司花巻図書館長、多田広美大迫図書館長、小原茂隆石鳥谷図書館長
菅野和東和図書館長

(3) 事務局

城守敏浩花巻図書館副館長兼管理係長、吉田郁子主任主査兼業務係長
菊池桂石鳥谷図書館主査

○欠席者 2名（和田政男委員、佐々木さつき委員）

○傍聴人 1名（岩手日日新聞社 丹沢誠翔氏）

●次第及び協議内容等

・会議成立の報告（城守花巻図書館副館長）

- ・委員11名中7名出席（白藤祐三委員、佐藤寧委員は遅参）。出席委員が構成員の過半数を超えているので、図書館協議会規則第7条により本会議が成立することを報告。また、本協議会は「花巻市審議会等の会議の公開に関する指針」により、公開する会議となり、会議の傍聴を希望する方がある場合にはこれを認めること、会議録等はホームページ上で公開することを申し添える。

1 開会（城守花巻図書館副館長）

2 あいさつ

（坂本知彌会長）

おはようございます。図書館に関するいろいろなニュースが出ております。新刊書が図書館でいっぱい貸出するから本が売れないとか、いやそうではないのだとか。そういう論争が新聞紙上でありました。それから図書館において無料で保育士さんが対応して、ゆっくり本を選べるという環境を作っている図書館もあるように新聞では紹介されました。市民の皆さんがいっぱい図書館を見てくれているのだなと思ったら、この会議でもしっかりと審議してより良い方向に持って行きたいと思って参りました。そうしましたら、館長さんからうれしいお話を聞きました。入口入ってすぐの所に、バリアフリーのコーナーを作った。新しい図書館ができるのはまだ先のようにですが、ハードの面が

まだだったら、ソフトの面で何とか足の不自由な方やお子様をいっぱいお連れの方に対応できないかということで、バリアフリーのコーナーを作ったそうです。今とってもううれしいなと思って心がホッコリしています。皆様、活発なご意見を頂戴して良い図書館になるようにしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

3 議題（協議会規則により会長が議長となる。）

(1) 平成27年度花巻市立図書館事業実施状況について・・・資料1

・平成27年度花巻市立図書館事業実施状況について（第2回協議会以降の部分を中心に）、花巻図書館から順番に説明。

花巻：吉田主任主査、大迫：多田館長、石鳥谷：小原館長、東和：菅野館長

（坂本知彌会長）

ありがとうございます。ただいま各館からユニークな展示等も含めて発表がありました。これについてのご質問はありませんでしょうか。

（佐藤寧委員）

石鳥谷図書館で本のリサイクル広場とありましたが、このリサイクルというのは東和図書館の古本市みたいな感じで、市民が持ち寄った本を販売する形なのですか。

（小原石鳥谷図書館長）

基本的には随時受け付けて見られる本から傷んだ本まで全部いただいて、所蔵できる本は4館でリサーチして、どこの館にも無いものは所蔵することにしております。複数本が有ったりして、これは大丈夫どこの館にも有るし、これは良いだろうという判断の物についてはリサイクル広場に出して、利用者さんや来た方々に提供するという形で実施しております。

（佐藤寧委員）

提供は無料ですか。

（小原石鳥谷図書館長）

はい、利用者の方から頂いたものを精査しながらおあげする。大体目安として10冊程度ということを出しています。

（佐藤寧委員）

東和図書館の古本市は2、3年行っていませんが時々結構掘り出し物があります。私も前に買いに行ったのですが、今は結いの会からの提供なのですか。

（菅野東和図書館長）

提供はどなたでもいいです。結いの会はそのお世話をしてくれます。

（佐藤寧委員）

以前、歳末助け合いの時に、文化会館でも結いの会から本が来て結構良い本が有ったので掘り出していたのですが、去年から売れないのでやめたと言われて、ちょっと悲し

かったのですが、結いの会は良い本があるので良いなあと思っていました。

(菅野東和図書館長)

市民の皆さんで年配の方々がお亡くなりになった際や終活に向かって自分がハッキリわかっているうちに、行き先を確かめて本を整理したいという方が増えてきて、トラックで届けてくださいます。年中受け付けています。その整理を結いの会が月例会を開くのでその時に仕分けをお手伝いいたします。それから古本市ですので、5円、10円50円、100円、あとはセットで500円とか適当な値段をつけて、でも交渉に応じるので、半値にまけろと言われてればすぐ値引きをします。いずれ処分されれば本は本として活かされれば良い。本当に郷土関係の良い本が集まることもあって、県内あちこちからお出でくださいます。集まる方は、テーマを持っていらっしゃるので良いと思います。

(佐藤寧委員)

こういうところに集まる本は、例えば、赤線を引いた本は廃棄になるのですか。

(菅野東和図書館長)

程度によります。あとは赤線引いてありますとか、書き込みがありますとか言いながらも、それでも読むことができる物はそれなりの値段にしています。

(佐藤寧委員)

私の本はみんな赤線が有るので、古本屋も引き取ってくれないし、困るだろうと思っています。

(日下明久美委員)

ぜひ、お待ちしております。売るばかりでなく談話室のところに、ご自由にお持ち帰りくださいというコーナーもあり、販売できないと思われる物はそこに並べて、そうするとそこも結構人気があります。

(坂本知彌会長)

ゴミに出す時代になったそうです。要らなくなった本は、それを聞いたらすごく悲しくなるのですけど。こういうように、リサイクルとか古本市とか本は捨ててほしくないと思います。

(日下明久美委員)

今年、例えば10円で文庫本買って行って、次の古本市でまたそれを出して下さる。だから何回も回る。所蔵しておくには、自分の家でもスペースが無い。そういうふうに皆さんの協力をいただいています。収益金は、東和図書館と相談し、欲しい資料を寄贈する形にしております。ボランティア団体なので結いの会も、値段をつけて売るのは手間がかかります。お金のやりとりもありますし、あとは皆さんに売るには、なるべく多くの本を揃えたいと思います。来てもらえる人には、いろんな古本市回るけれども、東和図書館の本はクオリティが高いと言われます。手前味噌ですがそうやって毎年来てくださる方が大勢います。

(坂本知彌会長)

あちこちで宣伝したいと思います。

(菅野東和図書館長)

4月は、9日、10日を予定しております。

(坂本知彌会長)

他に、ご質問ありませんか。

(白藤祐三委員)

希望ですが、2ページと3ページのところに、富士大学の早川先生の名前がありますが、私も1回聞いて本当に感心しました。これだけ図書館に、造詣が深くて自分の図書館の関係から経験がおありで、しかも花巻にいらっしゃる。これだけ図書館に関して有効な話をできる人はちょっといないなと思います。できるだけ多くの人に、早川先生の話をお聴く機会をもっといただければと思います。特に学校の先生方にそういう時間を持ってもらえば、大人もそうですが、非常に柔軟でしかも幅広い図書館の利用の仕方について、いろんなサービスの面でもすばらしい意見をお持ちで、ぜひ皆さんに聞いてもらえる機会があれば良いと思います。

(坂本知彌会長)

3月1日に職員の研修があると聞きましたが、図書館協議会の委員が聴くことは可能ですか。

(佐々木花巻図書館長)

3月1日の講師は、田口先生です。

(坂本知彌会長)

田口さんは、さわや書店の店長さんですね。田口さんのお話も、店舗もおもしろいいろいろな紹介の言葉などが有って、すごく楽しい店舗だと思うので、そういうお話を、もしご興味のある方は、聴講可能なそうです。

(門馬優子委員)

石鳥谷図書館の市民ギャラリーですけど、すごく好評なようで長く続いているようですが、職員の目に触れないスペースだと思いますが、問題とか課題とかありませんか。

(小原石鳥谷図書館長)

特にはありません。できるだけ職員が2階に上がって巡回するような形で見えています。確かに、サークル活動で作った方々の作品も展示しておりますが問題なく来ております。

(門馬優子委員)

すばらしいことですね。あのようなところで何も問題が起きなかったというのは。展示している方々が当番で付かなければならないということは、条件として設けていないのですね。

(小原石鳥谷図書館長)

そういうことは設けていません。説明したいという方がいるときや土曜、日曜で人が

多いときついている方もいます。

(坂本知彌会長)

他にございませんでしょうか。それでは、2つ目の(2)平成28年度花巻市立図書館運営方針(案)について、ご説明願います。

(2) 平成28年度花巻市立図書館運営方針(案)について・・・資料2

・(2) 平成28年度花巻市立図書館運営方針(案)について、資料2により説明

I 基本方針、II 重点目標、III 各館重点事項(1) 花巻図書館重点事項：説明

佐々木花巻図書館長

III 各館重点事項(2) 大迫図書館重点事項：説明 多田大迫図書館長

III 各館重点事項(3) 石鳥谷図書館重点事項：説明 小原石鳥谷図書館長

III 各館重点事項(4) 東和図書館重点事項：説明 菅野東和図書館長

IV 事業計画の概要：説明 城守花巻図書館副館長

IV 事業計画の概要のうち行事等の開催については、各館から説明した。

(坂本知彌会長)

これに関してのご質問はいかがでしょうか。

(佐藤寧委員)

石鳥谷図書館の行事予定の雑誌愛読月間関連事業とありますが、毎年あるのですか。

(小原石鳥谷図書館長)

岩手県立図書館が、こどもの読書週間とか、春・秋の読書週間、雑誌愛読月間など、読書推進のなかでうたっています。それに合わせて毎年取り組んでおり、7月に雑誌等をピックアップしたものを並べて展示紹介しているものです。

(佐藤寧委員)

もうひとつ、東和図書館の「フラメンコの夕べ」ですが、演奏もあれば、踊りもある、どっちですか、両方あるのですか。

(日下明久美委員)

演奏者までは呼んでこられないので、主に踊りです。

(菅野東和図書館長)

結いの会の運営委員のなかに北上でフラメンコを習っている方がいるので、その方のツテで先生とお仲間を安価な金額でお願いする予定です。

(日下明久美委員)

要らないよと、言ってくださいませ。結構、人のつながりは大事ですよ。何かやるときに、全然知らないところをお願いするのではなく、お仲間にも声をかけてもらうとか。そういう人のつながりは大事だと思うし、東和図書館はいろんなことをやっていますが、みんな人のツテでやっています。

(坂本知彌会長)

民間の力、人の力は、すごいなあと思っています。

(市川浜委員)

今、人の力というのでね。子どもたちへの読み聞かせ活動、はたしてどうかなあと思いながら。それぞれ図書館さんに、最初は石鳥谷図書館さんにご相談して、そして早速もう東和図書館にそれを伝えてくれて、そしてすぐ、それぞれ活動しているボランティアさんに新たに声をかけていただいて、今、東和の4つの保育園で読み聞かせを行っています。これも人の力、つながり、ありがたいことと感謝しているところです。それぞれ各館、創意工夫しながら28年度計画しているところですが、まだ議会にかけていない前なのでと言われるかもしれませんが、前年比、この事業計画の予算等々はどのようになっているものですか。聞かせてもらえる範囲内で結構です。

(佐々木花巻図書館長)

例えば、ひとつ読書活動の部分で言えば、前年とほぼ同額の予定でございます。読書活動の行事とかの経費等が同額の予定ということです。

(市川浜委員)

関連して、施設の改修とか、改善なされるとか、そういう面では28年度ないんですか。

(佐々木花巻図書館長)

4館あるわけですが、それぞれ年数が経過しているということから、軽微な補修等については、随時行っていくこととなっております。ただ、特にも花巻図書館がご覧のとおり40年を経過しているという中で、新館建設計画はあるものの時期が未定というなかで、新年度はフロアの張替えをこの会議室と隣の学習室、2階のこども室で予定しております。トイレも、これも非常にご不便をお掛けしているのですが、平成27年度の予算のなかで、洋式トイレを1階に1個ずつですが設置することといたしました。

(坂本知彌会長)

学校も洋式になっておりますので、それは必要なことだなあと。あんまりいっぱい手をかけてしまうと、図書館はもうちょっと我慢しろと言われたら困るので、着実に進めたいと思います。他にございませんでしょうか。

(門馬優子委員)

花巻図書館のバリアフリー映画会というのは、具体的にどういうバリアフリーなのでしょう。

(吉田主任主査)

県から借りてくるのですが、字幕のあるもの、それから手話通訳の方に手話をやっていただき、そういう形で行いました。来年度もやってみたいと思っています。

(坂本知彌会長)

字幕があると聴覚障がいの方も見られますね。

(吉田主任主査)

簡単ですが、手話も付きます。

(門馬優子委員)

もうひとつ、東和図書館の重点事項①でうたっているように、特に図書館は市民協働による生涯学習の推進ということが、非常に市民の側からも求められていますし、市民生活にとっても大きなキーワードになると思っていますので、市内の図書館どの館も市民協働という精神を常に忘れないでやっていくことが大事だと強く思いました。それから及川全三さんの資料が研究されてまとまる方向にあることがとても喜ばしいことと思うのですが、紙ものは東和図書館で研究されて、いろいろな作品と言いますかホームスパンのものは、どこが管理するのですか。

(菅野東和図書館長)

今のところは、ふるさと歴史資料館にあったもの、それが一部市の博物館に移管されています。ふるさと歴史資料館が休館中なので、それから萬美術館にも一部あります。実物の作品数がそれほどまだ無い感じです。

(坂本知彌会長)

分散するよりも、そこに行くで見られるとか、そこに行くホームスパンのことが全部知ることができるということも大事なような気がします。

(菅野東和図書館長)

研究者の方はまさにそれで、及川全三さんだけの著書を集めたから良いということではなく、及川全三はどんな考え方をしていたのか、どんな本からこのヒントを得たのか、全体像を知りたいと願って通ってくる。大学の先生もいたりするので、そうするとコレクション全部がないと人物を知ることができない。うちの館では、閉架のなかに及川全三の資料が一角を占めているのですが、入りきれなくなってきた、ロッカーに移したり日焼けする場所もダメなので配慮しつつ、何が有るかがわかるようにしてきました。資料の質に応じた善良な管理は、これで本当に良いのか、学芸員さんたちと相談していきたいと思っています。

(坂本知彌会長)

そうですね。散逸しないようにしないといけないと思うので、よろしくお願ひしたいと思います。他に。

(日下明久美委員)

まずは、会議資料の図書館運営方針案がすごく見やすくなったと思います。前年に比べて項目ごとに全館分まとまっているし、その中でも各館の特徴的なことが書かれているし、実は資料が送られてきた時にすごく感心しました。今後の方針に関わってなのですが、私は結いの会の代表でここに来ているのですが、これからの図書館を運営していくにあたって、先ほど門馬さんもおっしゃいましたが、ボランティアの協力がとても必要だと思うし、そこでいろんな事業展開ができ、今もそうだと思うのですが、読み聞かせなども、もっとボランティアに開かれた図書館にしてもらいたいと思います。新た

に始める人たちの育成ももちろん大事ですが、活動しやすく入っていきやすい図書館の運営をしてもらいと思います。場所を貸すだけでなく、いっしょに図書館を運営していくというのか、図書館事業を担ってくれるボランティアの育成とか受け入れに力を入れてやってもらいたいと思います。

(佐々木花巻図書館長)

大変貴重なお話ありがとうございました。私もボランティアさんの集まりに行った中で、非常に頑張っていていただいているとつくづく感じておりまして、その中で裾野も広げていかなければならないという思いもあって、スキルアップ講座というものを検討しました。おっしゃるとおりボランティアさん方のネットワークも重要だろうと思っております。現在は花巻地区の中部教育事務所が入ったりして、ネットワークというか年1回か2回の会議はあるのですが、やはりこれを市内全域のなかでもうちょっとネットワークを広げて意見交換あるいは情報交換ができるような場を図書館が間に入ってやっていかなければならないと感じておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

(坂本知彌会長)

市民協働というキーワード、どちらも心に留めて活動したいと思ひます。

(佐藤寧委員)

先ほどのトイレの話題に戻りたいのですが、全国的に学校でも洋式トイレが増えてきている。公共施設で洋式化が増えてきていると思うのですが、全国的に図書館のトイレも洋式化という流れなのですか。

(佐々木花巻図書館長)

そこまでの情報は不勉強で取り寄せていないのですが、市内の学校についても洋式化ということで、市としては取り組んでおりますし、これは当たり前なのか、標準化なのかと思っております。そのなかでも、全てを洋式にすれば良いのですが、不特定多数の方が図書館にいらっしゃることから、和式も残した方が良いという意見もありまして、和式と洋式との併用でと考えておりました。

(佐藤寧委員)

和式は古臭いというイメージがあるのですが、実は排便のメカニズムからすると和式の方が便秘の人には出やすいのです。非常に生理的な曲りになるので、和式の方が理想なのです。衛生面でも洋式が良いというのですが、例えば洋式の方がノロウイルスで下痢が流行っている時に、感染するリスクは高いです。ただ、汚すのは和式が多いので管理する側からすれば、たぶん掃除が大変ですし、洋式の方が良いのかなあと。衛生的には洋式は便座から感染するなど感染面で弱いところがあるので、和式をなくさない方が良いと思ひます。

(坂本知彌会長)

専門的なご意見を頂戴しました。他にございませんでしょうか。

(白藤祐三委員)

4ページの図書館奉仕活動の館内奉仕の2番目に、レファレンスや予約サービスの充実がありますが、レファレンスの統計というのは今まで見たことがありません。予約サービスの取り扱い件数というのも統計的なものが無いように思いますが、レファレンスも図書館の基本的なサービスですので、はたしてレファレンスのニーズもどのくらいあるものか。それが活発であればあるほど図書館の役割が高いという判断、目安になると思いますので、もし、レファレンスの統計があれば、後でも良いので教えていただければと思います。それから、予約サービスもどのくらい利用があるか。私の不満は予約してもいつまでも案内が届かないというケースがあります。図書館によっては、一定の返却日数が過ぎた場合には図書館から督促するという事も聞いていますので、限度を超えるようであれば、チェックして催促するのも必要ではないか。それから、できれば予約をした時点で今何人の方が予約しているかということも教えてもらえればと思います。ひとつの要望でした。

(吉田主任主査)

昨年度の調査の結果では、花巻図書館につきましては、レファレンスは本がどこにあるかも含めまして、2, 392件ありました。難しいものから簡単なものまで。

(佐々木花巻図書館長)

統計データを取っておりまして、4館全件で口頭なり電話、文書等、全部で3, 085件ほどレファレンスがありました。予約、リクエストにつきましても約13, 000件ほどの予約件数が4館であります。統計資料としては載っていなかったと思います。先ほどの督促のお話ですが、当然お貸ししたものですので、返していただくのが原則だと思いますので、電話連絡ですとか、システムでも督促の発送ができますので、長期に亘る方については督促状を出しておりました。

(白藤祐三委員)

花巻図書館の窓口の対応は満足しておりますが、臨時で採用している方は、司書資格は問わないということでしょうか。

(佐々木花巻図書館長)

原則、募集する際は、司書又は司書補の資格を有する方ということで募集しております。どうしてもその条件を満たさない場合もありますが、今現在はほとんど持っております。

(坂本知彌会長)

他にございませんか。

(小山田厚委員)

情報提供のお願いが1点と感想が2点でございます。花巻市立図書館職員研修会が年2回あるようですが、学校図書館の図書館担当者の研修機会、昨日もありましたが、非常に少ない状態です。もし情報提供いただければ、学校図書館の担当者に全員は難しい

としても、研修機会として提供したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それから感想2点です。平成28年度事業のなかにスキルアップ講座を加えていただいております。本地区でも図書館ボランティアの方々がおまして、非常に良い研修機会になりそうだと思って期待しております。よろしくお願いいたします。もう1点はバリアフリー化を重点事項に加えたのは非常に時宜にかなっていると思えました。4月から学校の方にも流れてきておりますが、障害者差別解消法というのが施行されるということで、非常に大事な重点項目になると考えております。よろしくお願いいたします。

(坂本知彌会長)

学校図書館の方にも、公開お願いできますでしょうか。

(小山田厚委員)

本校が事務局ですので、情報提供いただければと思います。

(佐々木花巻図書館長)

わかりました。

(坂本知彌会長)

先生に学校の新年度の図書館関係の取り組みについて、何かありましたらご紹介いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(小山田厚委員)

図書館関係については、市教委の方から、学校支援本部事業というのを湯口地区に割り当てていただきまして、小中学校ともに図書館ボランティアの方を中心にしながら地域連携を図っていくという事業で、国の補助事業をいただいて何とか読書推進を核にしながら地域との連携を図っていききたいというのが第一点でございます。

(坂本知彌会長)

何かとっても良い方向だと思うんですけど、実際に学校のボランティアをしている佐藤さんから、現状と情報といろいろあるようでございます。よろしくお願いいたします。

(佐藤三恵子委員)

私は石鳥谷小学校の図書ボランティア4年目ですけど、娘が3月に小学校を卒業しますので、在校児童の保護者としての活動は今年度で一区切りということで、小学校図書室の現状、ボランティアの在りようについて、皆様にご報告申し上げたいと思います。読み聞かせ活動は月に一度、月曜日の朝に全学年全クラスに入っています。昼の読み聞かせは月に一度、火曜日に空き教室で聞きたい子どもたちが集まる形で行っています。仕事を持っている若いお母さんも都合をつけて来てくださっていますが、問題に感じることは、やはり本選びです。うける、笑ってもらえる、反応があるという理由で、絵本を選んでいる方が実に多いです。例えば、ブックスタートの本を低学年に読むなど、季節感を大切にしないで、4月に笠地蔵とか6月にクリスマスの本を用意する人もいて、すごい問題だと私は思って、いつもお世話になっている石鳥谷図書館の菊池桂さんにご相談しまして、坂本知彌先生に昨年度今年度それぞれ2日間コースで2年連続、小学校

に来ていただいて読み聞かせ講演会をしていただきました。知彌先生に沢山の絵本や紙芝居を読んでいただいて、選書の参考にしてほしいという思いからの企画だったのですが、なかなかそういう趣旨がボランティアの方に伝わらない。対象年齢に合った本選びが今もできていません。知彌先生に本当に素敵な講演会をしていただいて、ボランティアだけでなく、参加してくれたPTA会長とか役員の方々、校長先生、保護者の方々とやっぱり本を読んでいただいてイイねという満足感という気持ちを共有できました。ボランティアでないあるお母さんが私にメールをくれたのですが、「今日いっぱい本を読んでもらってすごく気分が良いから夕食は白いごはんではなく、炊き込みごはんにする」、それくらいお母さんの気持ちも満たされてやる気が出るから、子どもにもとっても良いことだと思いました。参加してくれたPTA会長がお父さんの読み聞かせに時々参加してくれるようになって、今では子どもたちも、「今日はお父さんの読み聞かせあるの?」と期待してくれるようになって、そういう感じで活動しています。図書室の本棚整理については前回の協議会でもご報告させていただきましたが、夏休み2日間、図書館の菊池桂さんの指導のもと、親子参加型で大移動したのですが、その後の活動が今ひとつ、ボランティアの協力が得られなかったことをご報告いたします。夏休み前に児童の皆さんが一人2冊本を借りて、2学期の始業式以降に本を返却するのですが、大移動してしまっただけで、本の場所がわからない、子どもたちでは返せないということで混乱するだろうと思って、ボランティアの方々に事情をお話ししてボランティアで本の返却を手伝いましょうと電話しましたが、ボランティアの方が本の返却指導は先生の仕事、ボランティアの仕事ではない。それどころじゃないと言う方がいて、そういう考え方に従う人もいて、結局、私ともう一人のボランティアさんとボランティアではないけれど、お願いして来てくれたお母さんと4人で600冊本棚に返しました。小学校の図書ボランティアの仕事を読み聞かせだけと思っている方も多くて、子どもの読書に関わるころのどんなところでも奉仕を考えて、そういう活動につながれば良いのですが。これはボランティアの仕事、これはボランティアの仕事じゃないと自分自身で線を引いてしまうのです。そういう方々に、私が代表とかリーダーとして、どう接していけば良いのか本当にわからなくて、今も大きな課題だと思っています。図書館でボランティア研修をさまざま企画してくれて学校にもどんどん案内が来ますけど、研修目的として読書ボランティアの資質向上、ボランティア同士の交流を図ると書いていますが、若いお母さんは仕事をしていて忙しい中、ボランティア活動をしてきているという大前提はあるのですが、研修に参加しない、自分の資質を向上させたいとか、ボランティアとして学びが必要だとなかなか思ってくれない。自分が好きなようにやる、私が気づいたところがあっても、気づいたことを対等の立場で言い合う雰囲気もなかなか難しく、ボランティアに学校にもっと関わってもらおうとか、ボランティアを指導する支援員を派遣してもらおうとか。4年やってきましたが、年度々々によって集まってくるお母さんの個性によって、活動に波がでます。いっぱいやりたい人、そうでもない人、やはり安定的、継続的に小

学校の図書ボランティア活動をやるには、指導する人、支援する人という役割を持った方が必要ではないかと思います。仲間内で勉強し合う、忠告し合うのは難しいです。図書室の本の整理が終わって、ラベルの変更などをやっているのですが、私ともう一人の方二人で1週間に2回程度、朝9時から午後3時過ぎまで学校に通って、昨年終わりから一人増えて今は三人で活動してそろそろ終わるところなのですが、丸一日図書室にいますと子どもたちが図書室をどのように利用しているかも見えてきましたので、そこらあたりをご報告したいと思います。例えば、長期の休みの前に担任の先生に指導されて、1クラス単位に本を借りにくるのですが、先生はカウンターに入って貸し出しのパソコン操作をして、低学年のお子さんが一人2冊だから、かいけつゾロリを2冊持っていと先生がゾロリは1冊にしてもう1冊は他の本にしましょうと声をかけるのですが、他の1冊を選ぶのが難しいのです。子どもさんが字を読めて本が読めるようになれば、本を選ぶのを一人でしなくてはならない。小学生にこういう本あるよ、あんな本があるよ、どんな本が好きなのと聞いて、こんな本が好きと言ってもらったら、じゃあこういう本があるよと、そのように図書室にいてくれると、専門知識がある支援員がいてくれたら、どんなに本選びが豊かになるだろうと感じました。高学年になってくると授業で使う本を探しに来て見つからなくて、ボランティアのお母さんにいっしょに探してほしいと頼まれることもあるし、そういう時は私のような者は知識が無くて積極的にアドバイスできないのですが、そういう時も司書資格を持っているような知識のある支援員の方がいてくだされば良いと思います。一日いっぱいじゃなくても、この曜日は来るよ、この時間帯は来るよと、そういう支援員の方がいてくれれば良いと思います。あと、小学校では1年間に図書室の本を借りる冊数目標があって、今この時期達成するために追い込みで、すごく図書室が混んで借りに行くのですが、やはり冊数で取り組むと内容よりも字が大きくて薄い本に偏りがちで、年間で取り組む企画によっては、800ページ以上とかページ数での達成目標を設ける場合もあるようですが、おもしろければ本を読むのですが、それが学校のパソコンに反映されないから、パソコンで出してデータで管理しているから、貸出冊数はパソコンでの小学校図書室でのパソコンからのデータとしての貸出冊数でしか目に見える形での達成度が測れないというのが、それもわかるのですが、沢山読めば何でも良いというのは、本当に本を読む子を育てるのは難しい。早く読めば良い、沢山読めば良いというので、内容のある本を読むということ、自分で選んで見つけ出して読むということがすごく大変なことだと思いました。子どもには時期々に読んでほしい文学、物語等があると思うのですが、そういう子どもたちに薦めてあげる役割の大人、支援員なり先生が図書室にいないんです。読み聞かせボランティアも、ただ読むという感じで、読めば良いのしょうという感じで、子どもと本との出会いをつくるとか、そういう役割を担っているという気持ちが育っていない。育てるのが難しいというところ。今気がかりなのは、小学校図書室のラベルの張替えはしましたが、パソコンシステムとは変更されていないので内容が合致していない。現実の本のラベルとパソコン

の中の本の分類が合っていないことが気になります。それを誰がやるのかということが課題です。新しい本を業者から購入する際に、業者によっては花巻市立図書館の分類にならって参考にして入れてくれるブックス銀河さんがありますが、そうではないところでは、もう私たちがやり直しているという感じなのです。やがて何年か後に花巻に中央図書館ができて各学校の図書室のパソコンと繋がることを視野に入れれば、今後小学校で買う本を花巻図書館の分類に合うようにすると10年分は正しくなるから、そういうところも大事ではないかと思えます。以上です。

(坂本知彌会長)

ありがとうございました。現実にはいろんな問題を実際に見聞きし関わってきた方の重たいご意見でした。でも、司書教諭がいれば大分解決される問題ですが、現実に花巻市内の小中学校には司書教諭は配置されていないから起き得る問題で、これを少しでも解決に向かうという、良い方向は前回だったか、図書館の方から各学校の図書室に職員を派遣したらどうかというようなこともあったように記憶しています。その辺のところ館長さんから伺って良いですか。

(佐々木花巻図書館長)

たいへんありがとうございます。そういう方々の声を具体的に反映させていくというなかでは、来年度に子ども読書活動推進計画を作ることになっております。とかく計画となるといろんな数値目標だけで終わってしまうところはあるわけですが、今現在の読書計画のなかでは、いわゆる読書率の数値目標だとか、あるいは蔵書数の充実の目標とかそういった部分が掲げられているわけですが、それも重要だと思いますが、先頃、関係機関、今日出席いただいている小山田校長先生や教育委員会の小中学校課、あるいは坂本会長さんもお出席いただき、その中で今までの24年度からの振り返りをして、お互いに教育委員会と学校現場、学童クラブとか実際に携わっている、そういった中で計画に対して実態はどうなっているかという振り返りを行いました。そのひとつとして、いわゆる学校への図書館側として学校連携に関するアンケートを出しておりました。学校の先生が忙しくて手が回らないというのが実態だということは、皆さんの共通理解だと思いますが、その中で、学校図書室の担当の先生は、そういった支援体制が必要だという声が市内30校のなかで22校から出ている実態があることを教育委員会と情報を共有してさらには各学校にもフィードバックしました。その結果のひとつとして小山田先生からご紹介があった図書室を中心とした学校と地域の連携事業というものに取り組むことになったと思います。いずれ平成28年度に読書活動推進計画を作成することになりますので、そういった中ではボランティアさんであるとか、学校現場の方々も入ったなかで、求めているものをできるだけ具体化した計画になっていけば良いと思います。ただ数値目標だけではなくて、そういった課題に対して現場の声を反映できるような計画になっていけば良いと思ったところでしたので、そのへんを踏まえて皆様方のご意見を伺う機会もあると思いますので、そういう計画になるようにこちらも努力していきたい

と思っております。よろしく願いいたします。

(坂本知彌会長)

ありがとうございます。先ほどから、通じていることがあるような気がします。「協働」ですよね。それから学校と保護者のボランティアの気持ちがある。それをうまく生かす。昨日「えんどり」という言葉が出ましたが、うまくコーディネートする。それが図書館の専門職だと思うのでそこのところを生かした計画になるようにお願いいたします。時間がそろそろ予定の時間となっておりますけど、(3)その他にも入っている気がします。他にございませんでしょうか。事務局の方でその他ございませんか。それでは(3)のその他は終わって、事務局にお返しします。

(3) その他

なし

4 その他

平成28年3月31日で定年退職する、小原石鳥谷図書館長並びに菅野東和図書館長から協議会委員の方々に、お礼のごあいさつをした。

5 閉会 (城守花巻図書館副館長)